

第 59 期

第 2 四 半 期
株 主 通 信

2019年4月1日～2019年9月30日



P.1

株主の皆様へ



P.4

新工場建設決定



P.7

展示会到新製品出展





株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2019年9月30日をもちまして第59期第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日）を終了いたしましたので、当第2四半期の振り返りと今後の見通しについてご説明させていただきます。

ご高覧いただき、当社についてご理解をより一層深めていただければ幸いです。

代表取締役社長 **高松宗一郎**

Q 第2四半期実績について お聞かせください。

A 第59期第2四半期では、高水準の受注残高に対応しフル生産を続けることで、連結売上高が114億10百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益が9億70百万円(同8.0%増)、経常利益が10億57百万円(同7.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益が7億26百万円(同7.8%増)の増収増益を達成しました。

売上高が堅調に推移した一方で、米中貿易摩擦に端を発する海外経済の減速が設備投資の抑制に繋がるなど工作機械需要は低迷しました。その結果、受注高が40億90百万円(同59.5%減)まで落ち込み、受注残高が139億41百万円(同30.3%減)となりました。

事業セグメント別におきましては、工作機械事業では、自動化技術を付加した最適なソリューションを提案することで受注確保に努めてきました。また、中長期的な視野から、海外シェアの拡大や自動車産業以外の市場開拓に向けた戦略を推進してきました。

生産面では、組立員のスキルアップをはかるとともに、作業の標準化、設備の効率的運用に取り組むなど、生産体制の強化に努めてきました。

IT関連製造装置事業では、既存取引先からの継続受注に加え、新規案件の取り込みにも注力することで売上を拡大させ、自動車部品加工事業では、売上高が伸び悩む中、適切な生産対応とコストダウンの推進に取り組みました。

Q 先行きの見通しと取り組みについて お聞かせください。

A 当社グループの主力分野である工作機械業界では、非常に活況であった前年の反動や米中間の通商問題等の不確定事案の影響から需要が減少していますが、一定水準の底堅い需要が継続しています。

また、工作機械ユーザには自動化・効率化に対する強いニーズが見受けられますので、当社の強みである自動化技術や生産効率化をはかれる新製品など、ユーザが導入メリットを得られる提案によって受注獲得をはかっていきます。

生産面では、多くの受注残高に対応していくとともに、新たな受注にも早期対応をはかれるように、最適生産の実施に努めていきます。

Q 新工場建設の狙いを教えてください。

A 足元の工作機械需要は厳しさも予想されますが、中長期的に見ると、自動車販売台数の増加などが見込まれ、拡大していくと考えられます。

しかし、旺盛な工作機械需要から受注残高が積みあがった第

58期には、納品に1年以上お待たせするなど、現工場の生産能力が最大に達しており、生産能力の拡大が喫緊の課題となっていました。

そこで新工場を建設し、生産スペースの確保や現工場と連携した効率的な生産によって、工作機械の増産体制を確立することに決定しました。

当社は、「挑戦し、成長し続ける企業」であることを志向しています。この新工場完成によって中期計画2021の達成をはかるとともに、更なる成長にまい進していきます（新工場の詳細につきましては、4ページ「TOPICS」をご覧ください）。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

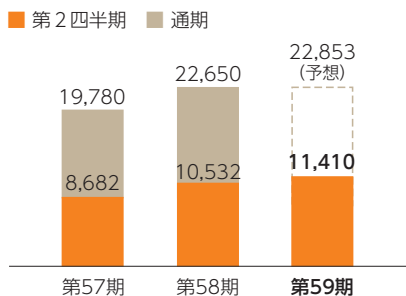
A 当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けていますが、今回は新工場の建設という大きな投資を決定しました。企業価値向上のための戦略的投資をご理解いただければと存じます。

なお、中間配当につきましては年初計画通り1株当たり10円を実施しました。期末配当は1株当たり15円を計画しています。

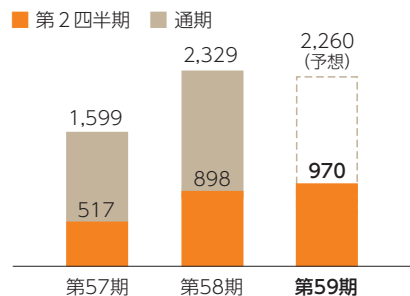
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

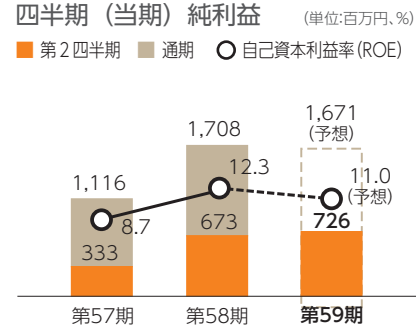
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益



セグメント別概況

第59期第2四半期
売上高構成比



工作機械事業

売上高 **10,123** 百万円
(前年同期比 6.9%増)

営業利益 **861** 百万円
(前年同期比 0.8%減)

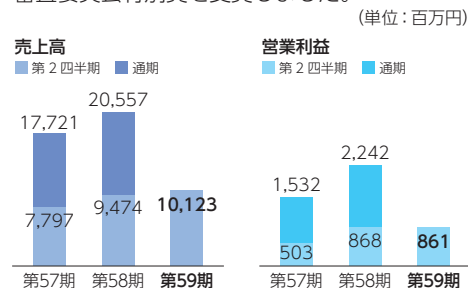


営業面では、海外シェア拡大のため、国際展示会への出展、海外プライベートショーやヨーロッパ現地ディーラ会議の開催等を行ってきました。

9月にドイツで開催されたEMO2019では、当社の「XT-6」と株式会社エンシュウ製「WE30V」との連結機を展示し、他社の工作機械ともライン化できる自動化技術をアピールしました。

地域別の売上高は、国内及びアジア向けが堅調に推移し、北米向けが増加した結果、内需が63億56百万円(前年同期比4.4%増)、外需が37億66百万円(同11.3%増)、外需比率が37.2%(前年同期は35.7%)でした。

製品面では、日刊工業新聞社主催の第49回機械工業デザイン賞において、当社製ローダ「Σi ローダ 高速タイプ」が性能の高さを評価され、審査委員会特別賞を受賞しました。



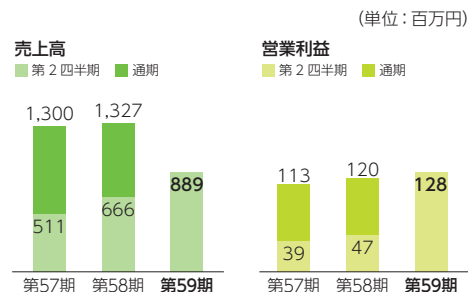
IT関連製造装置事業

売上高 **889** 百万円
(前年同期比 33.4%増)

営業利益 **128** 百万円
(前年同期比 171.2%増)

半導体関連の既存取引先を中心に、リピート案件の受注が安定的に継続したとともに、新規案件の取り込みにも注力した結果、売上高が順調に推移しました。

また、売上高の拡大に加え、製造原価低減活動に努めてきたことで営業利益が大きく改善しました。



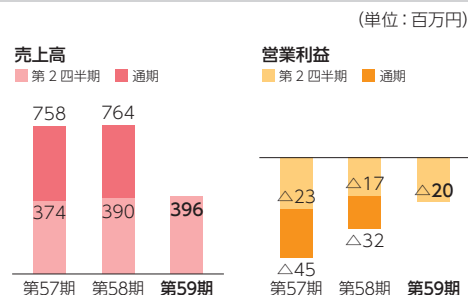
自動車部品加工事業

売上高 **396** 百万円
(前年同期比 1.5%増)

営業利益 **△20** 百万円
(前年同期は △17 百万円)

当社単体では効率的な生産の推進と引合案件の受注獲得に注力し、タイの連結子会社では設備投資等による生産拡大に取り組んできました。

利益面では、既存取引先の生産計画に下振れが生じたことで売上高が伸び悩み、営業損失の計上となりました。



TOPICS

新工場の建設が決定しました！

新工場建設により、更なる生産拡大、 生産の合理化・効率化をはかっていきます

当社はこの度、工作機械事業の生産拠点として、新たな工場の建設を決定しました。

ここ数年、工作機械の生産を行う本社工場は常に高い稼働率で操業しており、売上高においても順調に推移している中、生産スペースの不足が課題となっていました。

そこで、新たに工場を建設し、主力の工作機械事業の生産を一部移行することにより、現在の約1.5倍である300億円の連結売上高達成を目指せる体制となる見込みです。今後、増産体制の確立を進めるとともに、生産の合理化・効率化もはかっていきます。

新工場は4つのコンセプト(下記参照)のもと計画しており、生産性をアップさせるとともに、従業員にとってもベストワークプレイスとなる工場の実現を目指します。更に、お客様用の工場見学通路を設け、徹底した品質管理のもと製造される当社製品を、安全に、そして安心して見ていただける設計とする予定です。

この新工場を全生産拠点の中核と位置付け、将来を見据えた当社の「新たな成長戦略」の実現を目指していきます。



完成後の外観イメージ

新工場のコンセプト

- お客様に誇れる工場
- 製品の出荷効率アップ
- 大型機械の組立効率アップ
- 安全で使いやすい工場



ロビーイメージ

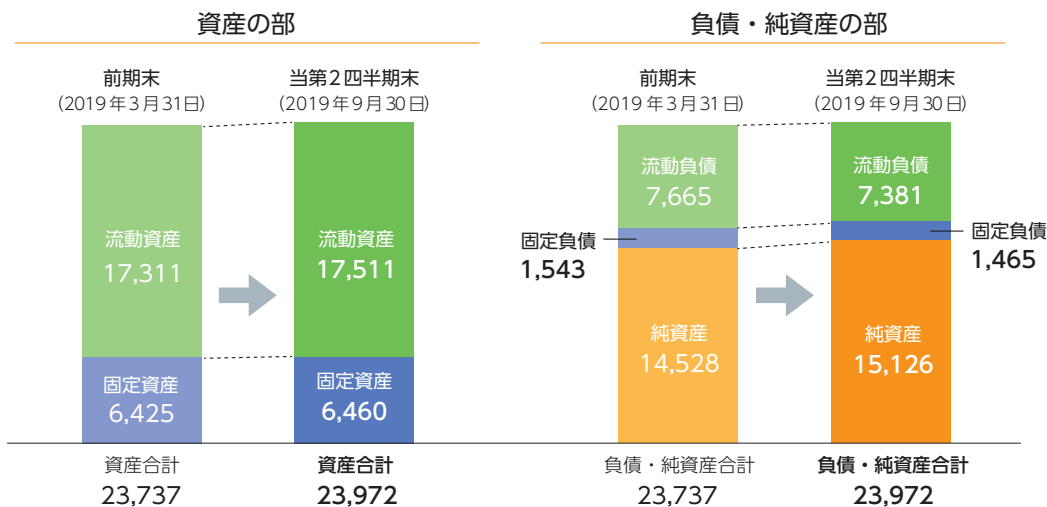


新工場概要(予定)

- 名称 新北部工場(仮称)
- 延床面積 約12,000㎡
- 投資総額 約35億円
- 操業開始日 2021年4月

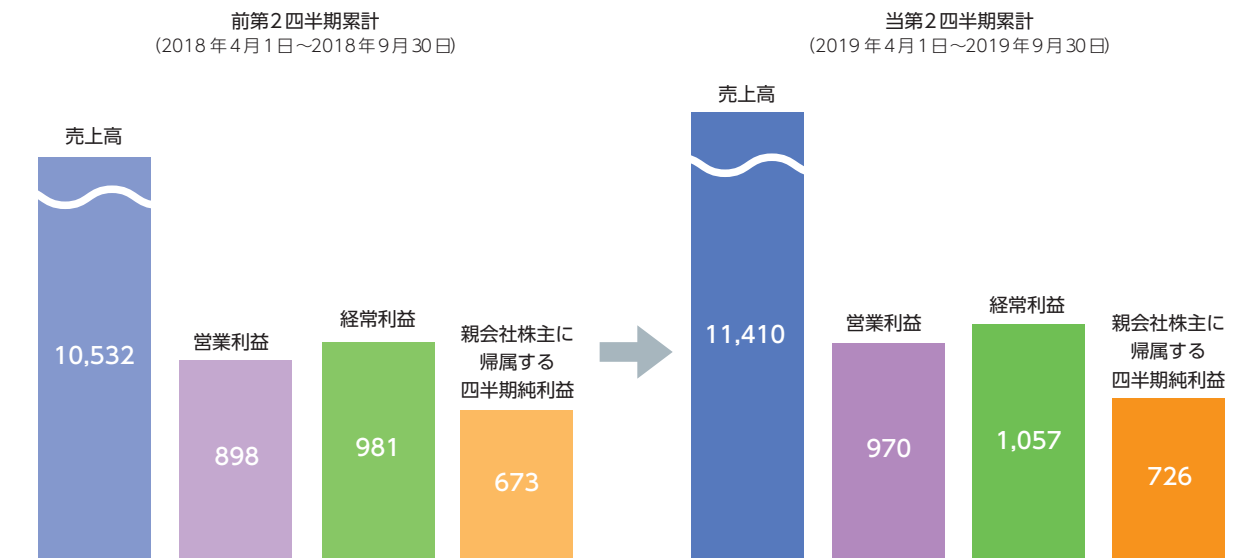
四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



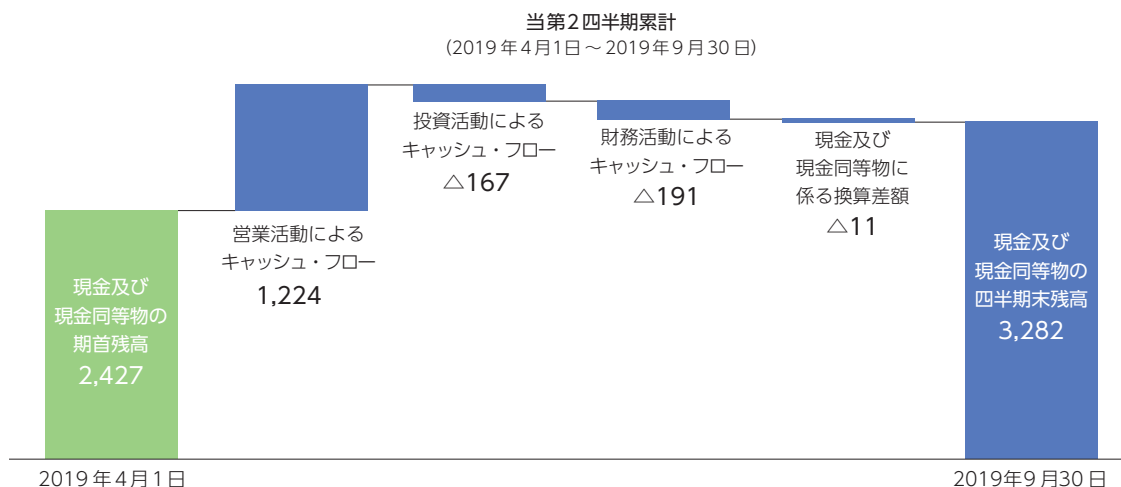
四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



財務のポイント

■ 資産

流動資産の主な変動要因として、電子記録債権が7億99百万円、流動資産のその他(前渡金等)が1億56百万円減少しましたが、現金及び預金が9億3百万円、受取手形及び売掛金が1億93百万円増加しました。

固定資産の主な変動要因として、投資その他の資産のその他(投資有価証券等)が71百万円増加しました。

■ 負債

流動負債の主な変動要因として、支払手形及び買掛金が3億42百万円増加しましたが、電子記録債務が2億70百万円、流動負債のその他(未払消費税等)が1億88百万円、未払法人税等が1億64百万円減少しました。

固定負債の主な変動要因として、長期借入金が75百万円減少しました。

■ 純資産

純資産の主な変動要因として、利益剰余金が5億75百万円増加しました。

なお、自己資本比率は63.0%であります。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

12億24百万円の資金流入(前年同期は4億49百万円の資金流入)でした。

主な流入要因は、税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権の減少等であり、主な流出要因は、法人税等の支払い等であります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

1億67百万円の資金流出(前年同期は7億9百万円の資金流出)でした。主な流出要因は、有形固定資産の取得による支出等であります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

1億91百万円の資金流出(前年同期は2億34百万円の資金流出)でした。

主な流出要因は、配当金の支払い、長期借入金の返済による支出等であります。

NEW XV-3

機械3台分を1台に集約した次世代の生産形態

大幅な工程集約を実現する新型機「XV-3」を開発しました。当機種は1台に3台分の加工装置を搭載しているため、旋削加工から穴あけまで、幅広い加工が1台で完了します。これまで機械を組み合わせて構成していた加工ラインも当機種1台で済むため、省スペースやコスト削減を実現するほか、同時に3工程それぞれが加工でき、大幅な生産性アップに貢献します。



NEW XT-8

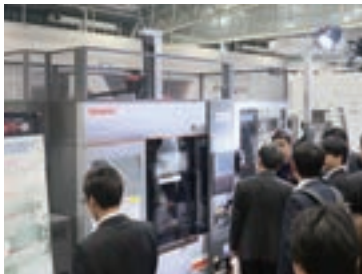
進化した操作性と切削能力により、高い生産性を実現

人気製品「XL-150」の後継機、「XT-8」を開発しました。当社の新操作システムを採用した当機種は、手動で行う刃物位置の調整作業を安全かつ容易に行える支援機能や、稼働状態を自動保存するIoT機能等が、生産性向上に寄与します。また、中低速回転数の加工において強力な切削能力を発揮するオプション仕様も追加したことで、従来に比べ効率良く加工を行うことが可能です。



メカトロテックジャパンに出展しました

10月23日から26日の4日間、名古屋で開催された工作機械見本市メカトロテックジャパン2019にて新機種「XV-3」、「XT-8」をご来場の皆様にお披露目しました。機械3台分の加工装置を搭載した「XV-3」には、お客様からの熱心なご質問が集まったほか、実演加工を行った「XT-8」には加工の様子をご覧になるお客様で人だかりができるなど、新製品へ強い興味を持っていただきました。



XT-8



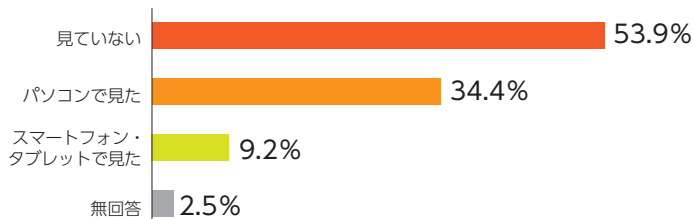
XV-3

アンケートのご報告

単元株主様の第58期株主通信に同封しましたアンケートにおきましては、たくさんのご回答をいただき誠にありがとうございました。
アンケートの集計が完了しましたので、その一部ですがご報告させていただきます。

単元株主数	3,607名
アンケート回答数	1,141名
アンケート返信率	31.6%

Q. 当社のホームページは2019年4月にリニューアルしましたが、ご覧になりましたか？

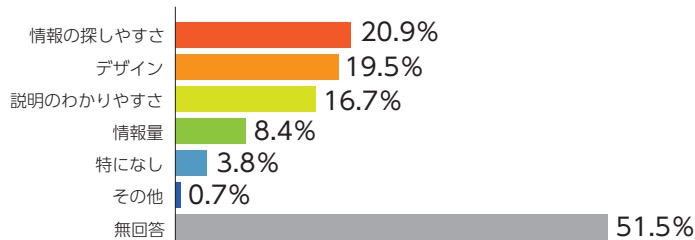


「いただいたご意見」

- リニューアルしたことを知らなかった。
- HPを見なくても、株主通信でよくわかります。

ホームページを「見ていない」と答えた方が約半数を占める結果となりました。ホームページには、最新のニュースや決算資料等、様々な情報を掲載していますのでぜひご覧ください。

Q. 当社のホームページをご覧になっていかがでしたか？ 良い点を教えてください。 (複数回答可)



「いただいたご意見」

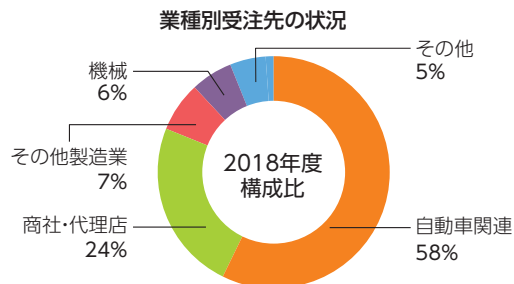
- IR情報へのアクセスのしやすさがよかった。
- スマートフォンの操作性が良い。

「情報の探しやすさ」と答えた方が最も多い結果となりました。皆様からいただいたご意見を参考に、至らないところを改善し、よりよいホームページの作成に努めていきます。

いただいたご質問にお答えします

Q. 高松機械の製品は何に使われるのですか？

A. 当社受注先は自動車関連が最も多く、自動車のエンジンやミッション、足回りの部品などの加工に利用されています。また、自動車関連以外にも、家電製品、航空機関連、医療機器等の部品の加工などにも利用されています。



会社概要

商号	高松機械工業株式会社
英文商号	TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.
設立	1961年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	560名

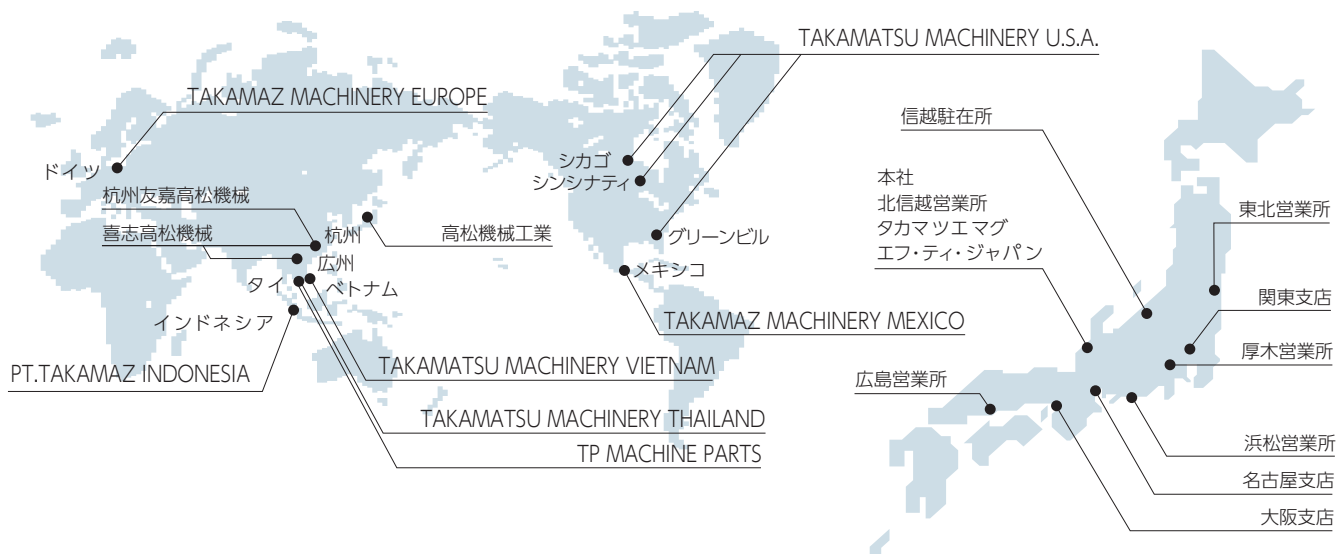
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> • CNC旋盤等の製造、販売およびサービス・メンテナンス • 部品、コレットチャック等の製造、販売 • IT関連製造装置の製造 • 自動車部品の加工
------	---

ホームページアドレス <https://www.takamaz.co.jp>

役員

代表取締役会長	高松 喜与志
代表取締役社長	高松 宗一郎
専務取締役	溝口 清
常務取締役	徳野 穰
常務取締役	磯部 稔
取締役	四十万 尚
取締役	前田 充夫
取締役	中西 与平
取締役	村田 俊哉
取締役(社外)	中西 祐一
取締役(社外)	石原 多賀子
常勤監査役	成田 秀信
監査役(社外)	杖村 修司
監査役(社外)	坂下 清司

ネットワークとサービス体制



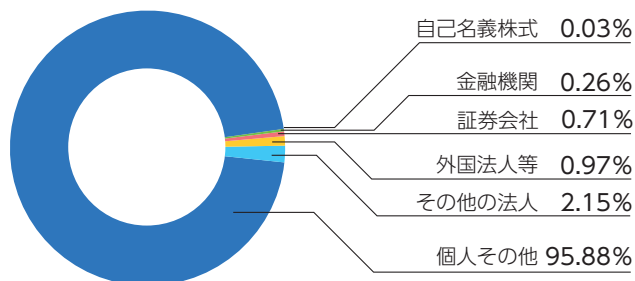
株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	11,020,000株
1単元の株式数	100株
株主数	3,808名

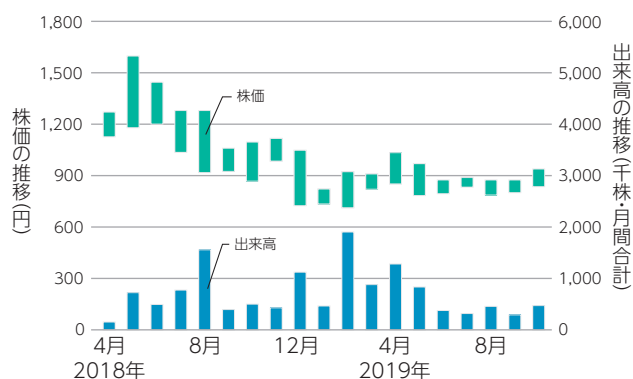
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	898	8.15
株式会社タカマツ	810	7.35
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
日本生命保険相互会社	384	3.48
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
株式会社朝日電機製作所	355	3.22
高松明毅	330	3.00
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	319	2.90
高松機械工業社員持株会	313	2.84

所有者別持株比率



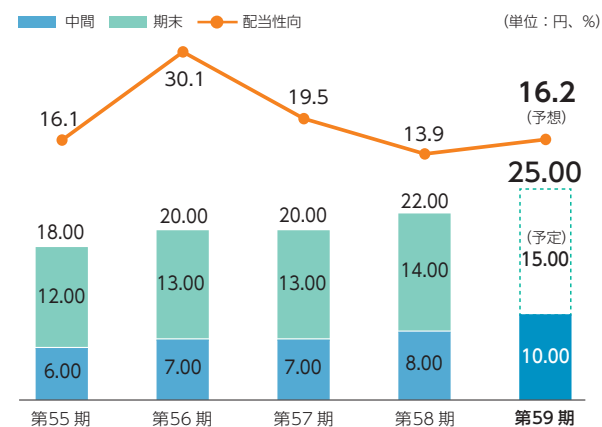
株価・出来高の推移



配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的な配当水準を維持していく方針です。また、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するため、必要な内部留保を行っていきます。当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としています。

1株当たり配当額



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日
(1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031
(インターネット
ホームページ URL) <https://www.smb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1410(直通)
FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ホームページのご案内

ホームページでは、様々な企業情報や展示会・イベント情報、IR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください！

当社ウェブサイト「トップページ」

<https://www.takamaz.co.jp>



「株主・投資家情報」トップページ ↓

